

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「おとうさんが教えてくれたこと」

栃木県 栃木市立小野寺小学校 2年 <sup>やまざき</sup>山崎 <sup>しゅうが</sup>終牙

ぼくは、大雨がふって、山がくずれているニュースをテレビで見たことがあります。家や車が土にうまっけていて、とてもびっくりしました。にげおくれてしまった人もいたと聞いて、こわいと思いました。

ぼくの通っている小学校は、山の上にあります。「もしもニュースで見たようなことがぼくの近くでおこったら。」と考えると、またこわくなりました。

ぼくのおとうさんは、しょうぼうしです。土しゃさいがいがあったばしょに行ったことがあるか聞いてみると、あると言っていたので、そのときのことを聞いてみました。

しょうぼうしが、土しゃさいがいのときにすることの1つ目は、大雨で川の水が多くなってきたら、土のうという土の入ったふくろを川にはこぶことだそうです。川から水があふれて、こう水にならないようにたくさんならべたり、つみ上げたりするそうです。

2つ目は、ちいきの人にきけんを知らせることです。土しゃさいがいがおきそうなとき、ひなんするように知らせるのです。ひなんするばしょは、公みんかんや学校など、広くてあんぜんなばしょです。おとうさんが、

「早く知らせて、さいがいがおきる前にひなんしてもらうことが大切なんだよ。」と教えてくれました。大雨のときは、こわくて家にいたいけれど、ひなんの知らせがきたら、いのちをまもるために、すぐにひなんしようと思いました。

そして、ぼくは1ばんびっくりしたのは、家にとりのこされた人を、ボートでたすけに行った話です。こう水で、どうろが川のようになってしまうと、しょうぼう車は、はしることができません。家の中まで水や土しゃが入ってしまっているのです。歩くことも大へんです。いつも通っているどうろや、見えているばしょが、ぜんぶ川のようになってしまうなんてしんじられませんでした。ボートをこいでたすけに行くのは、とても大へんだったと思います。おとうさんの話を聞いて、早めのひなんが大切だとよくわかりました。

さいごに、おとうさんが、

「土しゃさいがいは、いつどこでおきるのかだれにもわからない。だから、いつおきてもいいように、ふだんからそなえておくことが大切なんだよ。」

と、教えてくれました。そなえておくというのは、ひつようなものをじゅんびしたり、ひなんのし方をかぞくと話しておいたりすることです。今はコロナもあるので、マスクもぜったいにひつようだと思いました。

おとうさんたちしょうぼうしは、人のいのちをまもるために、ひっしではたらいてくれています。だから、ぼくも近くで土しゃさいがいがおきてしまったとき、いのちをまもるこうどうをいつも考えておきたいと思います。